

発見かんざき —北から南から—

横武の百手祭り

神崎市重要無形文化財(昭和48年2月1日指定)

例年1月25日に行われていましたが、平成16年から第4日曜日に行われています。

午後3時から乙竜神社の神前で、神事が行われます。神官によって祝詞(のりと)があげられます。

供え物はお神酒1升のほか6品で数量も定められ、魚はフナ2匹が1対で縄で上から下げられています。クリーク地帯ならではの、と思われます。

「トチギ」は12月大晦日に、その年の宮司(みやじ)によって氏子の数(80本)だけ切って、元日、神前にお供えて、百手まつりの当日、氏子に

1本ずつ配られます。各家では神棚に供えておき、火事除け、雷除けとします。(トチギは榎の木)

神事のあと、表に出て世帯主たちが1人5本の矢を射るのですが、的は東から「大的」「紙的」「菱的」の順に立てられています。「大的」の裏には「鬼」と書いた紙が貼られていて、当たれば「今年1年の大安」や「厄病除け」、「紙的」に当たれば「家内安全」、「菱的」は藁で作られていて、矢が当たれば「豊作」ということです。

*百手・・・百手200本の弓矢を射る御弓始の儀式に由来

*的までの距離・・・約10メートル

各氏子の弓射りが終わると神前に戻り、「代つう渡し」(じゃあつうわたし)が行われる。今年の宮司(みやじ)から来年の宮司への引継ぎで、お誂い三番がうたわれ、切り大根を頂き、杯を左右に回し、神事が終わります。

(県内にもいくつか残る百手まつりは、魔除けや年占い、豊作か凶作かの占いを兼ね、相撲神事と同様の意味を持つ。)



アクセス ■ 国道34号「大町橋」バス停から北(山の方角)に向って約1K、横武地区の北にある乙竜神社(公民館内)

編集後記

今話題のポリフェノールは、赤ワイン、ブルーベリー、大豆などをはじめ多くの食品に含まれています。その効能・効果は抗酸化作用によって身体の細胞をサビ付かせて傷つける活性酸素の働きを抑えることにより、老化や生活習慣病の予防に繋がると言われています。神崎市で開発されている菱の皮を混ぜたお菓子「ひしぼうろう」は、ポリフェノールが豊富に含まれています。健康を考えで作られた菱の形をした上品な甘さのお菓子です。一度味わってみてください。

(記 原口ひさよ)

| | |
|-------|-------|
| 広報委員会 | |
| 委員長 | 白石 昌利 |
| 副委員長 | 野副 芳昭 |
| 委員 | 宮地 明 |
| 委員 | 野口 英樹 |
| 委員 | 原口ひさよ |
| 委員 | 内田 良治 |